

## 令和 7 年度 指定管理施設運営状況中間評価表

## 1. 施設の概要

施設の名称	むつ市下北自然の家	
指定管理者	団体名	一般財団法人 むつ市教育福祉振興会
	代表者	理事長 村田 尚
	所在地	むつ市大畑町観音堂 2 5 番地 1
指 定 期 間	令和 5 年 4 月 1 日 ～ 令和 8 年 3 月 3 1 日 ( 3 年間)	
指 定 管 理 業務の概要	1 施設の使用許可に関すること。 2 施設の利用料金の徴収に関すること。 3 食事代、クリーニング代及び教材費の徴収に関すること。 4 青少年の集団宿泊生活の指導及び助言に関すること。 5 野外活動、体育及びレクリエーションに関すること。 6 自然観察、その他の自然に親しむ学習活動に関すること。 7 施設の維持、管理及び修繕に関すること。 8 施設の特性を生かした利用促進に関すること。 9 その他施設の設置目的を達成するために必要なこと。	

## 2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

 ※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。  
 (単位：千円)

区 分	年 間 計 画 額 ①	上 半 期 実 績 額 ②	増 減 (②－①)
収 入 合 計 (A)	97,560	49,099	▲48,461
うち利用料金額	7,509	4,094	▲3,415
うち指定管理料	90,011	45,006	▲45,005
支 出 合 計 (B)	97,560	40,582	▲56,978
うち人件費	60,973	28,692	▲32,281
収支差 (A－B)	0	8,517	8,517
市 へ の 納 入 金			
計画額と比較した 実績額の増減理由	※上半期終了時は記載不要		

## 3. 施設利用の状況

(単位：人)

	区 分	年間計画 ①	上半期実績 ②	増 減 (②－①)
利用者数	宿 泊	1,000	684	▲316
	貸し館	80	73	▲7
	食 事	11,000	6,020	▲4,980
	洗 濯	1,300	925	▲375
	教 材	2,100	1,604	▲496
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施 <input checked="" type="radio"/> (有)・無				

利用団体及び主催・自主事業の際には、必ず利用後にアンケートをとっている。利用団体との事前打ち合わせから団体の要望には柔軟に対応し、必ず対応職員を充て、安全面の配慮や緊急時の対応ができていることから、利用者の満足度は高い。特に、職員の対応と食事の献立は高評価を得ている。

上半期は前年度より利用者数、利用料金収入ともに減少した。今期は猛暑のため6月から暑い日が多く、特に7月後半から8月にかけて利用が激減した。

#### 4. 自主事業の実施状況

(単位：人、千円)

事業名	利用者数	収入	支出
健康づくり「春」	34	45	33
ファミリーキャンプ	30	141	137

#### 5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価

評価基準 A（優良）：計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果を上げることが見込まれる。

B（適正）：適正に指定管理業務を行っており、計画された業務水準を達成できることが見込まれる。

C（要改善）：指定管理業務の一部に課題があると認められ改善の余地がある。

評価項目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
① 施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
② 潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③ 自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	B	B
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
① 施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があつたか。	B	B
② 収入増を図るための取組みを行い、効果があつたか。	B	B
③ 職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
① 施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
② 設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	B	A
③ 労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④ 利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
① 利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか	B	B
② 日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	B	A
③ 防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	B	B
④ 利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

6. 指定管理者総合評価 ㊤自己評価をAとした項目の内容及びCとした項目の改善策を記載すること。

市広報紙や市公式LINE、FMアジュール出演等により施設のPRに取り組んだことから、定員数を充足した主催・自主事業が8事業中4事業あった。ちなみに昨年度同時期は、14事業中3事業のみが定員数を充足した。

受入事業は、扇風機の補充等、夏場の暑さ対策ができなかったことから、昨年度同時期と比較して利用団体数、利用者数ともに減少した。

また、7月に敷地内で熊目撃して以降、屋外の活動制限や事業の中止もあり、施設の持てる力を効果的に発揮することができなかった。

しかしながら、利用者への負担を最小限に考慮した屋内プログラムへの変更や、大音量で音楽をかけての毎日の定期巡回、皮剥ぎ箇所等の情報の共有、熊避けスプレーを補充して担当職員にあてがい2人1組で屋外作業を行うなど職員一丸となって熊対策を実施した。職員一人ひとりの誠意に因って、利用者の危険を回避し安全に施設を利用してもらうことができた。

7. 市の所管課総合評価 ㊤市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

(4)②老朽化した設備、備品のメンテナンスをこまめに行い、適切な管理が行われていることから引き続きお願いしたい。

猛暑、熊の異常出没、皮剥などの目撃により、事業の縮小、中止があったものの、適宜対応し、利用者の安全第一に取り組んでもらえた。

また、熊の出没警報が出ている中でも、施設周辺の見回りを行い、敷地内を適切に管理していた。今後も利用者の安全に取り組んでもらいたい。